

平成 28 年 1 月

第 6 号

地域公共交通東北仕事人メールマガジン

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

地域公共交通東北仕事人 事務局です。

『地域公共交通東北仕事人メールマガジン第 6 号』をお届けします。

本メールマガでは、最新の交通政策や旬のコラムなど、東北運輸局ホームページ (<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/ks/new%20page/koukipagetop.html>) で発信している情報をいち早くお伝えしていきますので、どうぞよろしくお願いたします。

第 6 号目次

○仕事人コラム：

地域公共交通東北仕事人（有限会社 フタバタクシー 代表取締役） 及川 孝

○我が町紹介： 秋田県藤里町総務課 <佐々木 吉昭>

○地方自治体への仕事人マッチング事例（まちもびデザイン 伊地知仕事人）

○「おでかけ交通博 2015 in 弘前」開催報告

○編集後記



公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

☆仕事人コラム

有限会社 フタバタクシー

代表取締役 及川 孝

11月27日の弘前での仕事人会議で、東北運輸局の地域公共交通東北仕事人を拝命しました、有限会社フタバタクシーの及川 孝と申します。フタバタクシーは、仙台市に所在し当初から福祉分野に特化したタクシー会社として設立しました。52年を経過し、現在では、一般タクシー23台、福祉・介護タクシーや、子育てタクシーなど合計50台余の構成となっており、乗務員の9割以上が初級ヘルパー以上の資格を有しており、仙台圏で初めてUDタクシーを導入するなど車両構成面でも東北では希少な会社として事業を行っています。また、子育てタクシーにつきましては、現在一般社団法人全国子育てタクシー協会（加盟会社は145を数え、養成講座を受講し子育てタクシードライバーに認定されている乗務員は1700名を超えております。）の会長として、その普及活動に努力しており、成果が認められて、時の太田大臣から平成26年度国土交通省バリアフリー推進功労賞表彰の栄をうけております。

地域公共交通の質的な向上に向け、少子高齢化社会に伴う社会的課題に対応したタクシー事業のあり方、具体的には、夫婦共働き社会におけるお子様の保育園や学校から塾や託児所への安全安心な移送や高齢者の病院への通院のお手伝いや車いすでの温泉地や観光地への移送など多様な需要に対応することはもちろん、付加価値を持ったサービス、そしてそれを実行する従業員教育、利用者の満足度の高い質の高いサービス、公共的色彩の強い「総合生活移動産業」を目指して、日夜取り組んでいます。

地域公共交通と言えば、普通路線バスや鉄道を思い起こす方が多いだろうと思いますが、ドアツウドアの特性を持ったタクシーによるSTSができるタクシー事業者も当然その役割を担う交通モードとして、国や地域行政、他の交通モード、利用者との協働・連携をしていかなければ、今後の地域公共交通はもちません。しかしながら、タクシー事業者特に東北における事業者の地域公共交通に向けた認識や取り組みは、集中地区の供給過剰や乗務員不足、過疎地の事業者の撤退など当面の生き残りをかけた事業経営の中にあって、今後の重要な課題として取り上げていかねばなりません。

そういった意味で、地域公共交通東北仕事人の中で、唯一のタクシー事業者として、皆様協力し、地域社会の一助となるべく、事業に邁進していく所存です。なにとぞよろしくお願いたします。



☆「わが町紹介」

秋田県藤里町 総務課企画財政係 主査 佐々木 吉昭

「制度もいいですが、現場を見てください」

平成25年秋田県主催の交通ワークショップ。秋田運輸支局五十嵐誠首席運輸企画専門官の言葉に、地域への暖かい眼差しをもつ方々がここには揃っていると深く感じました。

制度だけでは現場のギャップを埋めきれないと感じていたタイミングでのこの言葉は、中長期の視点を持ちつつ、現場の調整を重ねなければいけない交通課題への取り組みを進める上で支えとなっています。

当時秋田県ワークショップでは、公共交通仕事人の若菜千穂さんを講師にむかえ、国、県、基礎自治体の視点、事業者や住民視点など、年数回ながら意欲的なプログラムに多くの学びがありました。振り返れば、このような“タテ横ナナメ”の学びの場と、現場を歩き来ることが何よりの支援となったように思います。

秋田県藤里町は、秋田県の最北端に位置し、青森県との県境一帯は、標高1,000mを超える山並みが連なる白神山地です。人口は約3500人。面積は282.13km²、約9割が山林です。町の東部は北秋田市、西は八峰町、能代市に接し、南は能代市二ツ井町に通じています。鉄道、国道はなく、公共交通の現状は、バスとタクシーにより担われています。その多くは自家用車による移動となっています。現在はデマンド交通実証実験を実施しています。

公共の交通の課題として、何より交通の現状把握が不十分ということが課題となっていたため、平成26年は国調査事業、本年度は秋田県支援による交通実証や分析、事業者との調整など進めている中で、藤里町地域公共交通網形成計画を提出することができました。

計画はできました。しかし、いかに住民にとって実感のある計画とできるか。小規模自治体ゆえの担当者空白地帯にならぬよう課題は満載です。

誰のために何のために行っているのか。制度頭になりがちにならぬよう現場の事象と真因について考えつつ、引き続き持続可能な町へと計画を磨き上げ、取り組みを進めたいと思います。

☆仕事人マッチング事例報告

秋田県地域公共交通再構築ワークショップ（秋田県主催：平成27年10月13日）に、東北運輸局より、伊地知仕事を講師としておでかけいただきました。テーマが「モビリティマネジメント」。ご自身の得意分野でもあり、とても丁寧な説明が、参加した秋田県内の市町村公共交通担当者から非常に好評でした。今後も、仕事人へ相談事項がある際は遠慮無く東北運輸局までお問い合わせください。



ワークショップの様子

☆おでかけ交通博 2015 in 弘前 開催報告

昨年度南東北（福島市）で同事業を初めて開催し、官学連携での開催が好評であったことから、北東北においても同様のイベントとして実施しました。地域公共交通の活性化や交通まちづくりなどに頑張っている19団体に出展いただき、ブースにて各々の取り組み内容を1枚のポスターにまとめわかりやすく説明いただき、成果や悩みなどの共有を図りました。北海道新幹線開業を来年3月26日に控えた函館市や、東京、愛知など遠方からの出展もありました。



庄子交通政策部長による主催者挨拶

当日は、約120名の方々が集い、東北運輸局の庄子交通政策部長による主催者挨拶、福島大学の吉田准教授のミニ講演の後、各団体による1分間のPRタイムの後、メインとなるコアタイムでは、来場者と説明者が、フェース・トゥ・フェースで地域公共交通に関する情報や知恵を共有するとともに、活発な意見交換が行われました。八戸市の公共交通アテンダント「はちこ」のコミュニケーションアンケートの実演パフォーマンスなどがあり、会場を大いに盛り上げました。

また、来場者と出展団体、「地域公共交通東北仕事人※」との交流も深まり、人的ネットワークの構築の良い機会ともなりました。最後の「仕事人の時間」では、仕事人の皆さんから、お気に入りの取組みに対して「のりたろうシール」をポスターに貼るとともに一言コメントをいただき、各取組みに対する講評をしていただきました。
 (<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/ks/new%20page/ks-su%20b06-2.html>)



吉田准教授によるミニ講演

「仕事人の時間」終了後は、出展者、来場者、主催者、希望者が誰でも参加可能な交流会を実施し、前回は遙かに上回る 80 名以上の方々が参加し、地域の公共交通に対する思いを語り合い、たいへんな盛況となりました。



大野仕事人による一言コメント

〈当日のプログラム〉

- 主催者挨拶 東北運輸局交通政策部長 庄子 政美
- 開催主旨説明 福島大学
人文社会学群経済経営学類准教授 吉田 樹
- 1 ミニッツPR (各出展団体から1分間のPRタイム)
- コアタイム(各ブースで出展者がポスターを用いて取組内容を説明。聴き手側からの質問・意見、仕事人等からのアドバイス等を行う。)
- 仕事人の時間 (地域公共交通東北仕事人による高評価を示す「のりたろうシール付与&ひとことコメント」)
- 閉会后、交流会を実施



会場内風景

○出展団体

- 北海道新幹線函館開業対策推進機構 ■青森県 ■秋田県 ■青森県三沢市
- 八戸市地域公共交通会議 ■八戸五戸路線バス利用促進協議会
- 弘前市弘南鉄道大鰐線存続戦略協議会 ■宮城県大崎市
- 山形県鶴岡市地域公共交通活性化協議会 ■青い森ウェブ工房 ■ITS アライアンス
- 小田原機器・JR 東日本メカトロニクス ■弘前大学学生団体 H・O・T Managers
- NPO 法人まちなもびデザイン ■NPO 法人いわて地域づくり支援センター
- 津軽鉄道 ■大鰐交通 ■フタバタクシー ■福島大学経済経営学類吉田ゼミ

☆編集後記

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、交通行政へのご助力を賜り誠にありがとうございます。

本年も地域公共交通の確保・維持・改善のため、皆様のご指導を仰ぎながら、自分たちの「仕事」に邁進していきたいと思っております。本年も何とぞよろしく願い申しあげます。

さて、今回の仕事人コラムを、昨年11月に新たに仕事人となられた及川仕事人に執筆いただいております。東北仕事人としては初めてのタクシー事業者様となり、新たな視点でのご意見、ご活躍を祈念しております。

また、今回の「わがまち紹介」では、秋田県藤里町の佐々木様から投稿いただいております。藤里町は昨年、地域公共交通網形成計画を策定し、今後の地域公共交通の利活用や地方創生の第一歩を踏み出したと言えます。東北管内では4自治体（山形県小国町 秋田県由利本荘市 秋田県藤里町 福島県伊達市）が交通網形成計画を策定し、今後も30を超える自治体が交通網形成計画の策定を予定しております。また、再編実施計画の認定を目指す自治体も増えております。ご不明な点等ありましたら、是非前広にご相談いただければと思います。それ以外でもお悩みや疑問等ありましたら、いつでもお問い合わせください！！

■このメールは、東北運輸局交通政策部交通企画課アドレスから発信しています。

■本メールサービスの解除を希望する方はお手数ですが、下記メールアドレスにその旨ご連絡ください。

tht-koutsukikaku@mlit.go.jp

■最新の情報は国土交通省・東北運輸局ホームページをご確認ください。

国土交通省ホームページ：<http://www.mlit.go.jp/>

東北運輸局ホームページ：<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/index.html>

お問い合わせ：tht-koutsukikaku@mlit.go.jp

■このメールの配信を希望される方、記事に掲載を希望される方はこちら

tht-koutsukikaku@mlit.go.jp

■配信元：国土交通省東北運輸局・地域公共交通東北仕事人事務局

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright (c) 国土交通省東北運輸局

